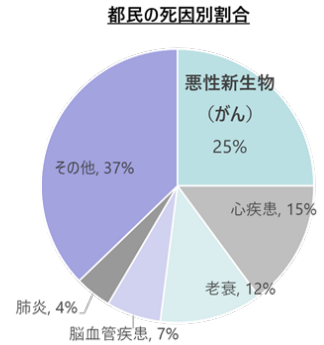


参考：がん検診について

■ がんは、誰でもなる可能性があります。

日本人の2人に1人が生涯のうちにがんになると言われており、誰でもがんになる可能性があります。また、令和4年にがんが原因で亡くなった都民は34,799人で、死因の約4分の1を占めます。

がんは初期の段階ではほとんど症状がないことが多く、知らないうちに進行していることもあります。自覚症状なしに進行するがんを早期に見るための手段が、がん検診です。



出典：東京都保健医療局「人口動態統計（令和4年）」

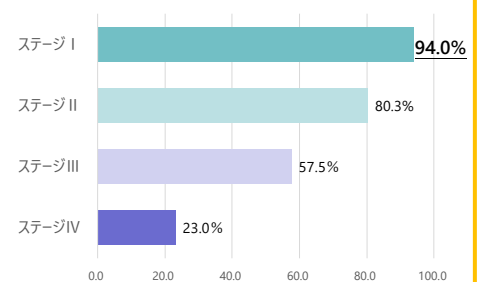
■ がん検診の定期的な受診が重要です。

がんの早期発見・早期治療による5年後の生存率は90%以上です。

一方、がん検診の受診を見送り、次の受診までの期間が空いてしまうと早い段階で発見できたはずのがんが進行した状態で見つかることにもなりかねません。

必ず定期的にごがん検診を受診しましょう。

がんと診断されてから5年後の生存率（全がん）



出典：公益財団法人がん研究振興財団「がんの統計 2022」

■ がん検診の対象年齢や受診間隔について

がんによる死亡率の減少効果が科学的に証明されているがん検診として、国は以下の5つのがん検診について、検診項目、対象者、受診間隔等を指針で定めて受診を推奨しています。

がん検診の種類	検診項目	対象者	受診間隔
胃がん	問診に加え、胃部エックス線検査または胃内視鏡検査のいずれか※ ※当分の間、胃部エックス線検査については40歳以上、年1回の実施で差し支えない	50歳以上	2年に1回
大腸がん	問診及び便潜血検査（免疫便潜血検査2日法）		
肺がん	質問（問診）、胸部エックス線検査及び喀痰細胞診※ ※50歳以上で喫煙指数（1日に吸うたばこの本数×喫煙年数）600以上の方	40歳以上	年1回
乳がん	質問（問診）及び乳房エックス線（マンモグラフィ）検査	40歳以上（女性）	2年に1回
子宮頸がん※	問診、視診、子宮頸部の細胞診及び内診	20歳以上（女性）	2年に1回

※子宮頸がん検診については令和6年2月より HPV 検査単独法が追加されています。

がん検診の結果、「要精密検査」と判定された場合には、必ずその検査を受けましょう。

■ がん検診の申込み先

詳細は、お住まいの区市町村にお問い合わせください。

お勤めの方は職場でがん検診を実施している場合もありますので、職場の担当者までご確認ください。

各区市町村のがん検診担当部署はこちら

<https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/kensui/gan/contact/>